

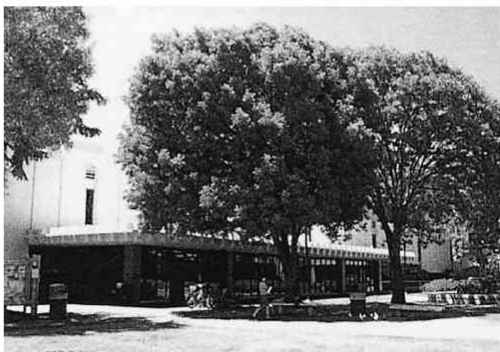
ハワイ大学マノア校ハミルトンライブラリー

理工学部講師 佐藤 望

1. はじめに

平成14年度に在外研究の機会を得てハワイ大学マノア校に滞在した。その折、資料収集や読書のために足繁く通った大学図書館について、主に、特別コレクションの内容を中心として紹介させていただく。

ハワイ大学マノア校の総合図書館、ハミルトンライブラリーは広大なキャンパスのほぼ中央に位置し、学生や教員の勉学・研究の場として欠かせない役割を担っている。椰子の木やパニヤンといった南国特有の木々に囲まれて立つ建物は地下1階、地上5階建てであり（総面積約27,384㎡）、約330万冊の書籍、590万本のマイクロフィルム、6万本のAV関連資料、3万7千種類の雑誌（電子媒体で提供されるものを含む）、26万枚の地図や写真類などを所蔵している（一部はキャンパスの西門付近にあるシンクレアライブラリーに分置されている）。



ハミルトンライブラリーの玄関

館内に足を踏み入れてまず気がつくことは空調機から吹きつけてくる強烈な冷風と、館内が震え上がるほどまでに冷やされていることである。半袖で入館しようものなら30分も

しない内に体中が冷え切ってしまう。一年中暑く、また、朝晩頻繁に雨が降るために湿気が多い気候条件の下で所蔵物を保存していくためには止むを得ない策なのだろうが、この強烈な冷房にはしばしば悩まされた。

2. ハミルトンライブラリーの特別コレクション

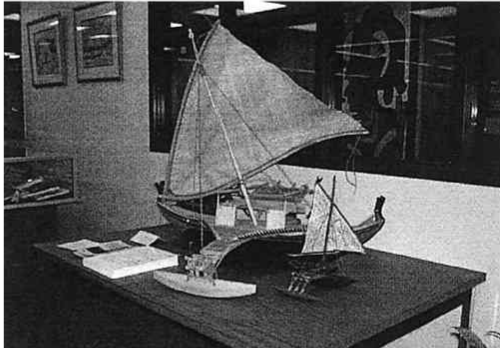
(1) ハワイアンコレクション

ハミルトンライブラリーはハワイならではの貴重なコレクションを有している。その一つ、「ハワイアンコレクション」のコーナーには、ハワイの歴史、文化、美術、自然科学などに関する書籍が約13万3千5百冊、マイクロフィルムが約1万2千本、AV資料が約7千5百本収蔵されている。コレクションの中心は19世紀から20世紀にかけて出版されたハワイ諸島に関する書籍であるが、それらに加えてニューズレター、私信、日記、楽譜、パンフレット類などハワイの歴史や文化を知る上で貴重な資料も広範囲に渡って収集されている。



ハワイアンコレクションのコーナー

その中でも秀逸なコレクションとして高く評価されているものは、大航海の末にハワイで殺害された冒険家、トーマスクック（1728-1779）の著作集やハワイ諸島における航海の歴史、航海術などに関する豊富な書籍、資料類である。コーナーの中には帆船の模型も展示されており、ハワイで育まれてきた海洋文化の奥深さに触れることができる。



帆船の模型

また、興味深いコレクションとしては、サトウキビ産業に関するアーカイブを挙げるができるであろう。ハワイではサトウキビ産業が19世紀後半から20世紀前半にかけて繁栄し、ハワイの歴史に大きな影響をもたらした。ハワイサトウキビ栽培者協会はその歴史的重要性を認識し、サトウキビ産業に関わる資料の散逸を防ぐために、プランテーションを訪ね歩いて資料を収集し、アーカイブとして保管していた。ハワイアンコレクションでは1995年にそれらを譲り受けて所蔵している。プランテーションで過酷な労働を強いられていた者の多くは移民であり、サトウキビ産業の歴史は移民の悲しい歴史とも重なり合う。このアーカイブにはハワイに巨大な富をもたらした産業の光と影が交錯している。

その他、ユニークなコレクションとして、20世紀前半にハワイで隆盛を極めた代表的なパイナップルプランテーション、ドールパイナップル社に関する資料類がある。資料の中にはドール社にまつわる新聞・雑誌記事や年報、ニューズレター、ポスター、広告、缶詰のラ

ベル、夥しい数の写真などが含まれており、パイナップル産業の歴史や当時の活況ぶりに思いを馳せることができる。

(2) パシフィックコレクション

「パシフィックコレクション」はメラネシア（ニューギニア島、ソロモン諸島、フィジー諸島など）、ミクロネシア（マリアナ諸島、マーシャル諸島など）、ポリネシア（ハワイ諸島、ニュージーランド、イースター島、サモア、トンガなど）に関する書籍、資料を約7万5千点所蔵しており、世界的にも傑出したコレクションといわれている。創設当初はハワイアンコレクションの一部に含まれていたが、各地域に対する歴史学的、文化人類学的関心の高まりと共に収蔵物が飛躍的に増加したことから1960年代の終りにハワイアンコレクションから独立して新設された。毎年、約3千点の書籍や資料がコレクションに加えられている。このコーナーの入口から室内を見渡した時、最初に目を引かれるのは壁から無造作に吊り下げられたマスクなどの儀式用道具類である。展示数はさほど多くはないが、一瞬、気圧されるような気持ちに捕らわれる。



儀式に用いられた道具

メラネシア、ミクロネシア、ポリネシアから収集されたコレクションにはこれらの地域に住む民族が織り成してきた豊かな歴史、文化が反映されている。例えば、コーナーの片隅には各地域で発行される全ての新聞が揃えられているが、それらを見較べるだけでも、

民族の多様性を垣間見ることができる。また、コレクションの一環として、これらの地域で使われている全ての言語の辞書、文法書などが収蔵されており、開架に並べられたそれらの数と種類は圧巻である。

文化人類学的に高い学術的価値を持つメラネシア、ミクロネシア、ポリネシアの多くはかつて植民地支配に苦しめられた暗い歴史を持ち、また、未だに他国の統治領となっている地域もある。パシフィックコレクションでは第二次世界大戦後に発行された政府機関の年報、各種調査報告書、法律関連雑誌、植民地や独立国に関する統計資料などを各地域から積極的に収集している。その中でも、ミクロネシアがアメリカの信託統治領であった時代の政治、法律関連の資料は2千本余りのマイクロフィルムに収められ、この地域の歴史の変遷を辿る上での貴重なアーカイブとして活用されている。

(3) アジアコレクション

大学キャンパス内にイーストウエストセンターという研究機関がある。ここではアジア・太平洋諸国と地域の歴史、文化、経済、社会問題などに関する教育、研究が活発に行われている。アジア諸国に関する書籍、資料類を収集した「アジアコレクション」は1970年までこのイーストウエストセンターによって管理されていたが、その後はハミルトンライブラリーの管轄下で国内外の研究者のニーズに耐えうるコレクションの充実化が図られている。

東アジア、東南アジア、南アジアの諸国・地域に渡って収集されているコレクションの中でも日本に関するものは質、量ともに充実している。日本のコレクションの中には収集者の名を冠した「サカマキコレクション」と「カジヤマコレクション」という二つの特別コレクションがある。前者は琉球王国に関する資料（約2千点）であり、ハワイと琉球王国との間でなされていた交流の歴史について詳細な資料が多数収集されている。また、後者は

日本人移民の歴史に関する資料（約7千点）からなっている。先に紹介したサトウキビプランテーションのアーカイブとともに日本人移民の労働史、生活史研究に寄与する貴重なコレクションといえよう。

3. おわりに

ハワイ州はその地理的条件故に、アメリカ本土の州とは大きく異なる気候、歴史、文化的背景を持っている。ハミルトンライブラリーはその特色を活かしたコレクションの充実、すなわち、地の利を巧く特化させることによってその存在をアピールしていると感じた。

本稿の大部分は、今年の夏、在外研究先を再訪した際に得た情報を基にして書いた。在外研究中は専門分野の書籍や資料に注意を奪われがちで、他のエリアに足を向ける余裕がなかったが、今回、本稿の依頼を受け、じっくりと館内を探訪し、貴重なコレクションに接する機会を持つことができた。そのことに深く感謝申し上げる。

[2004.10.1記]